

令和元年度 第1回 桐生市子ども・子育て会議の開催結果について（報告）

【日 時】 令和元年7月1日（月）午後2時00分から午後3時30分まで

【場 所】 桐生市役所 6階 605会議室

【出席者】 別紙「桐生市子ども・子育て会議 委員出席状況」のとおり
※過半数以上の委員が出席しているため、会議は成立

【あいさつ】 尾花会長あいさつ

【議 事】

- (1) 平成30年度 桐生市子ども・子育て支援事業計画における進捗管理状況
について

別添の資料1「平成30年度「桐生市子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～31年度の5か年計画）」における進捗管理状況について」に基づき、各担当者が説明を行う（主に、基本目標1について説明を行う）。

《質疑応答》

委 員：まず、10月に保育料無償化が予定されているが、特に3号認定（3歳未満）の入所が増えたときの対応について何か考えているのか。

次に、P-7の地域子育て支援拠点事業において、平成29年度から平成30年度にかけて利用者数が増えている。この利用者数が増えた要因とすると、キノピーランド（屋内遊戯場）開設の影響が考えられるのか。

次に、P-12の子育て短期支援事業において、預け先を2か所追加したが、それぞれの施設の利用定員がいっぱいの時に、別の施設等に預けることはできるのか。

最後に、P-14の（ファミサポ事業）病児緊急対応強化事業のニーズについて、把握しているのか。

事務局：まず、保育料が無償化になるのは1号・2号認定と、3号認定の（住民税）非課税世帯のみが無償化の対象となる。保育所等に通うためには、保護者が就労しているなどの条件があるため、この無償化によって、3号認定が爆発的に増加することはないと考えている。

次に、地域子育て支援拠点事業については、キノピーランドの開設による相乗効果によって増加している。キノピーランドは、クール制で時間を区切って開設している。このため、キノピーランドを利用するために待っている時間を利用して子育て支援センターを利用する人も見受けられる。

次に、子育て短期支援事業については、最近は虐待の件数なども増えているため、一時保護も増えている。よって、どの施設も利用されていて定員を満たしている状態もあった。このため、預かってもらう施設を増やして対応している状況である。

最後に、(ファミサポ事業) 病児緊急対応強化事業に、需要があるかどうかの調査は行っていない。ただし、病児の預かりは、一定数の需要があるため、市内でも病児預かり事業を、1か所で実施している。なお、利用形態の多様性なども考慮し、ファミサポ事業においても、病児の預かり事業を推進したいと考えている。

委員：P-9 こんにちは赤ちゃん事業（乳児家庭全戸訪問事業）において、平成30年度の量の見込み（582人）に対して、全戸訪問した実績（417人）となっている。実績数が大きく下がっている中で、評価が「A」ということについて、もう少し説明していただきたい。

事務局：こんにちは赤ちゃん事業の量の見込みは、策定時から変更していない。市の出生数が年々減少しており、平成30年度の出生数は509件であった。このため、量の見込みに比べ、実績が大きく減少している。出生数509件に対して、実績数が417件であるが、この509件の中には、里帰り出産した人数なども含まれているため、実績数が少なくなっている。なお、助産師も訪問している。

(2) 桐生市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査の結果について

別添の資料2「桐生市 子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書」に基づき説明を行う。

《質疑応答》

委員：P-39の回答結果から見ると、4歳、5歳でも幼稚園または保育園に通っていないお子さんが、市内にいるのか。

事務局：非常に割合は低いが、4・5歳になっても保育所・幼稚園などに通っていない子どもはいる。また、P-39の回答結果において、1歳と3歳の割合が多くなっているのは、1歳で保育所（認定こども園）、3歳で幼稚園に預けたいと思っている保護者が多いと推測される。

委員：本年10月から開始される保育料無償化や、本年4月から開始された働き方改革などにおいて、次のアンケート調査の結果などは変わってくるのではないかと考えられる。また、P-15において、子育てに関して相談相手はいないと回答した人が2.9%存在しているということが心配になった。また、P-16において、気軽に相談できる施設として子育て支援センターが14.9%である。利用者支援事業も含めて、気軽に相談できる施設があると

ということをもっと知ってもらえれば、子育て中の方で救われる人が増えてくるのではないかと思う。P-43において、子育て支援センターを利用していない人が74.6%、P-45において（子育て支援センターを）新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わないが58.8%いる。なぜ利用しようとししないのか教えてもらいたい。

また、P-47において、インターネットで閲覧できる“子育て応援サイトおやここ”がある。現在、スマートフォンが普及しており、インターネットを閲覧しやすい環境にあるが、利用されていない人が多い印象である。このような子育てサイトをもっと多くの人に閲覧してもらえればと感じている。

最後に、P-103において、満足していない人は、なぜ満足していないのかという理由に興味がある。その理由が分かれば教えてもらいたい。

事務局：このニーズ調査を行った段階では、保育料無償化については質問等に入れていないため、今回の計画策定においては、保育料無償化の部分（量の見込みなど）を考慮することはできない。また、保育料無償化によって、どのくらい利用する人数が増えるのかは、不透明な状況である。保育料無償化に関して、今後何らかの影響がある場合には、今回策定する計画の変更で対応しようと考えている（2号認定の利用者がどうなっていくのか読みきれていない部分もある）。

次に、相談体制の問題であるが、（本市では）子育て世代包括支援センターにおいて、積極的に相談できる体制を構築しているため、同センターを相談先の受け皿として位置づけ、活動を推進している。

また、子育て支援センターを利用していない方について考えられるのは、既に幼稚園や保育所に通っているお子さんにもアンケートを行っているということが挙げられる。例えば、保育所利用者は、子どもを1歳ごろに保育所に通わせるため、子育て支援センターの存在を知らなければ、そのまま利用することもなく保育所に通ってしまう。

市の子育て支援センターについては、幼稚園に子どもを通わせようとしている方の需要が多いように感じられる。

最後に、満足していない人については、自由記述意見から読み取ると、保育所の保育料が高いなどの理由から、経済的な支援を求めている方が一定数いる。このため、10月から開催される保育料無償化により、ある程度解消されていき、満足度も上がってくるのではないかと考えている。また、桐生市と他市を比較した内容の意見もあった。

委員：自由意見の中に桐生市の良いところや、満足しているという意見はあったのか。

事務局：都心から転入してきた保護者からは、比較的評価が高いことが見受けられた。例えば、保育所・幼稚園・放課後児童クラブなどについて、第1希望

で入ることができる。ただし、公園が足りないという意見もあった。
また、キノピーランドは、概ね高評価であった。相談窓口の対応が良いという意見もあった。

委員：桐生のマイナスイメージはすぐに出てきて、他市のほうが良いということになるが、自由意見のプラス意見を聞いてみると、やっぱり桐生の子育ては良いと思うので、自由意見を保護者に伝えていただければ、より満足度が上がってくると思う。自由意見について、様々な意見があると思うが、ぜひ公表してもらいたいと思う。

(3) 第2期 桐生市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度から令和6年度までの5か年計画）策定スケジュールについて

別添の資料3「第2期 桐生市子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュール」に基づき説明を行う。

《質疑応答》

・特になし

(4) その他

- ・事務局が、会議出席に係る報酬の支払日について連絡を行う。
- ・事務局が、次回の会議開催予定日が令和元年9月下旬頃の説明を行う。

以 上